

# 忘れられないダルシャン

## ゴーピ・マウラー

1980年、バーバの3回目の世界ツアーの間、私は現在のシュリー・ムクターナンダ・アーシュラムで開催されたシャクティパート・インテンシヴに参加しました。このイベントの終わりに近づくと、参加者にはインテンシヴでの体験を分かち合う機会が与えられました。多くの話を聞いて、私も話そうと決めました。マントラが金色の文字で私の前に現れたという素敵な体験をしたので、手を挙げて話しました。

翌日、バーバがダルシャンを与えた時、私は彼が私の話を覚えていて、何らかの形で私を認めてくれることを密かに期待していました。並んで待っていると、バーバがクジャクの羽の棒を持ち、前に進み出たすべての人に愛情を込めて祝福を与えているのが見えました。しかし、私が彼の前にプラナムをささげた時、彼はクジャクの羽で私をなでませんでした。実際、彼は私に分かる形では、私を認めませんでした。次の夜、まったく同じことが起こりました。バーバは私に気づいた素振りはしませんでした。

私はこのことに困惑し始めました。そして、それまでしたように、自分が話した体験についてもう一度考えました。私は体験を話した後、不安を感じたことを思い出しました。何か「間違っただけ」をしたかのような感じでした。

話そうと思った動機を検証すると、私の体験は本当のことでしたが、効果を狙ってほんのちょっぴり脚色したかもしれないと気づきました。私は、バーバを含めて他の人たちに良い印象を与え、喜ばせたかった自分自身を認め始めました。これをした時、私はリラックスし始めました。軽くなっていくのを感じました。私はバーバへの心からの愛を体験しました。私自身について

何か重要な発見をしたと感じました。他の人に良い印象を与えることによって、自分のエゴを満たす必要はないことに気づいたのです。

3日目の夜、再びダルシャンに行きました。私が言葉を発する前に、バーバはクジャクの羽で、とても優しく、甘く、慈愛深く私の頭をなで始めました。私は他の人たちを「喜ばせ」たかったと、飾らずに彼に話しました。

彼は大きな愛で私を見て、頭をそっとなでながら言いました。「まず自分自身を喜ばせなさい。そうすれば、誰もがあなたに喜ぶだろう」

バーバの変容させる教えは、これまで40年にわたり、ずっと私と共にあります。バーバとのこの対話を思い出さない月はほとんどありません。誰かに良い印象を与えようとか、喜ばせようとしていると気づいた時、私は自分の内側で起こる、なじみのある不快感に気づき、バーバの教えを思い出します。私は内側に向かい、考えます。その瞬間にどう私自身を喜ばせることができるか、どう大いなる自己に戻ることができるか、どう大いなる自己をたたえることができるか、どう私自身の愛する仲間満足することができるか。バーバの言葉を心に取り入れる時、私は幸せになります。良い印象を与えることや飾り立てることから自由になると感じます。私は自分自身や他の人たちと、美しい形で、心と心で、つながっていると感じます。開いていて、リラックスし、正直だと感じます。これらのマインドの状態は、私が必要とする自分自身の大いなる自己からの確認のすべてのように、バーバからの永遠の贈り物のように、感じるのです。

私たち一人一人の状況に対する驚くべき繊細な認識と、何年にもわたって私の内側で鳴り響き続けている教えに、私はバーバへの感謝の気持ちでいっぱいです。

